

かれたり^①。此經を信ずる者の功德は分別功德品隨喜功德品に説けり^②。謗法と申は違
 背の義也。隨喜と申は隨順の義也。させる義理を不^レ知^③、一念も貴き由申は違背・隨順
 の中には何れにか取られ候べき。又末代無智の者のわづかの供養隨喜の功德は經文
 には載られざるか如何。其上天台・妙樂の釋の心は、他の人師ありて法華經の乃至童
 子戲、一偈一句・五十展轉の者を、爾前の諸經のごとく上聖の行儀と釋せられたるを
 ば定謗法者給へり^④。然るに我釋を作る時、機を高く取て、末代造惡の凡夫を迷はし
 給はんは、自語相違にあらずや。故に妙樂大師、五十展轉の人を釋して云、恐人謬解^⑤
 者不^レ測^⑥初心功德之大^{ナルコトヲ}。而推^{ユヅリテ}功上位^ニ。蔑^{あなヅル}此初心^ヲ。故今示^{シテ}彼行淺功深^{キコトヲ}。以顯^テ經
 力^ヲ。文の心は謬法華經を説ん人の、此經は利智精進上根上智の人のためといはん
 事を、佛をそれて、下根下智末代の無智の者の、わづかに淺き隨喜の功德を、四十餘年
 の諸經の大人上聖の功德に勝れたる事を顯さんとして、五十展轉の隨喜は説れたり。
 故に天台の釋には、外道・小乘權大乘までたくらべ來て、法華經の最下の功德が勝た
 る由を釋せり。所以に阿竭多仙人は十二年が間、恆河の水を耳に留め、耆兔仙人は一
 日の中に、大海の水をすいほす。如此得通の仙人は、小乘阿含經の三賢の淺位の一通

① れたり＝る ② 説けり＝説之 ③ 理＝趣 ④ 載られざるか＝ノセサルカ ⑤ 文＝云へ
 り ⑥ をそれて＝オホシメシテ